

世界を変革する力

ヨハネの福音書 16:7～15

16:7 しかし、わたしは真実を言います。わたしが去って行くことは、あなたがたにとって益なのです。それは、もしわたしが去って行かなければ、助け主があなたがたのところに来ないからです。しかし、もし行けば、わたしは助け主をあなたがたのところに遣わします。

16:8 その方が来ると、罪について、義について、さばきについて、世にその誤りを認めさせます。

16:9 罪についてというのは、彼らがわたしを信じないからです。

16:10 また、義についてとは、わたしが父のもとに行き、あなたがたがもはやわたしを見なくなるからです。

16:11 さばきについてとは、この世を支配する者がさばかれたからです。

16:12 わたしには、あなたがたに話すことがまだたくさんありますが、今あなたがたはそれに耐える力がありません。

16:13 しかし、その方、すなわち真理の御霊が来ると、あなたがたをすべての真理に導き入れます。御霊は自分から語るのではなく、聞くままを話し、また、やがて起ころうとしていることをあなたがたに示すからです。

16:14 御霊はわたしの栄光を現わします。わたしのものを受けて、あなたがたに知らせるからです。

16:15 父が持っておられるものはみな、わたしのものです。ですからわたしは、御霊がわたしのものを受けて、あなたがたに知らせると言ったのです。



イエスが十字架にかかれる前の晩に語られた決別説教の中には、聖霊についての教えが、4回ふれられている。

①内に住まれる聖霊

ヨハネ14:16-17 わたしは父にお願いします。そうすれば、父はもうひとりの助け主をあなたがたにお与えになります。その助け主がいづまでもあなたがたと、ともにおられるためにです。その方は、真理の御霊です。世はその方を受け入れることができません。世はその方を見もせず、知りもしないからです。しかし、あなたがたはその方を知っています。その方は**あなたがたとともに住み、あなたがたのうちに**おられるからです。

②教師としての聖霊

ヨハネ14:26 しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、また、わたしがあなたがたに話したすべてのことを思い起こさせてくださいます。

ここで大切なことは、助け主である聖霊がみことばを解き明かされる方であられるということである。この方の助けなしに、私たちは神のことばを正しく理解し、気づきが与えられたり、真理を悟ったりすることは決してできない。

③キリストについて証しする聖霊

ヨハネ15:26 わたしが父のもとから遣わす助け主、すなわち父から出る真理の御霊が来るとき、その御霊がわたしについてあかしします。

御霊は常に寄り添い、控えめで自らの存在を前面に押し出しはしない。常に背後にいてキリストをあかしし、御子の栄光を輝かせる存在なのである。私たちのうちに御霊が働いているかどうかは、私たちがキリストに栄光を帰しているか、キリストを高めているか、自分を吟味すればわかるのである。

もし私たちが自分の能力や自分のすばらしさを人に印象づけるような発言や態度をするならば、御霊が働いているとは言えない。

④世界を変革する聖霊

ヨハネ16:8~11 その方が来ると、罪について、義について、さばきについて、世にその誤りを認めさせます。罪についてというのは、彼らがわたしを信じないからです。

また、義についてとは、わたしが父のもとに行き、あなたがたがもはやわたしを見なくなるからです。さばきについてとは、この世を支配する者がさばかれたからです。

ここでは、世の三つの誤りが取り上げられている。

(1) 罪について 世にその誤りを認めさせる

「罪についてというのは、彼らがわたしを信じないからです」と教えている。つまり、真理を語っているイエスを信じないことが罪であるということを、聖霊は人々に明らかにしようとされるということである。

(2) 義について 世にその誤りを認めさせる

「義について」とは、イエスは「わたしが父のもとに行き、あなたがたがもはやわたしを見なくなるから」だと説明している。

それは御子イエスの十字架の死と復活の出来事を意味しています。「義」とは神と人との正

しいかわりを意味する。それは「救い」とも言える。

神が示した正しいかわりとは、御父が遣わされた御子イエスを信じることである。

御子イエスの十字架の死が自分の罪のあがない(身代わり)であったことを知り、死からよみがえられたイエスが救い主であることを信じることで、神がその者を義とし、神の子として受け入れてくださることを意味している。

しかし、世の理解する義はイエスに対する信仰によってではなく、自分の行いによって得ようとする。聖霊はそうした考えが誤っていることを認めさせるお方である。

(3) さばきについて 世にその誤りを認めさせる

「さばきについて」とは、「この世を支配する者がさばかれたから」だとイエスは語っている。「この世を支配する者」とはサタンのことである。

十字架の死と復活によってサタンはすでに敗北している。

その力はすでに十字架において無にされている。すでに勝負がついているが、神は今しばらくこの地上においてサタンの支配を許しておられる。

しかし、やがてサタンは完全に滅ぼされる運命にある。このさばきについての事実を聖霊は明らかにしてくれるのである。

さばきは今 御子を信じるかどうかで決まる

ヨハネ3:17~18 神が御子を世に遣わされたのは、世をさばくためではなく、御子によって世が救われるためである。御子を信じる者はさばかれない。信じない者は神のひとり子としての御名を信じなかったので、すでにさばかれている。

これは聖霊が、さばきは将来にあるというこの世の人々の判断が間違っていることを教えている。つまり、さばきは今、このときに、神が遣わされた御子を信じるかどうかで決まるということである。

聖霊の働きに信頼し 福音を伝えよう

罪とか義とかさばきについて語ることは、十字架を正しく語ることにつながる。

どんな人にでも、どんなところでも、聖霊のこの世に対する働きに信頼し、私たちは神の喜びのおとずれと十字架の福音を語るならば、聖霊が働いてくださるのである。